

4 土地・気象

6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島と並んで温暖な地方です。しかし両総台地は内陸性気候で寒暖差はやや大きく、反対に太平洋及び内湾沿岸は海岸性の気候で比較的暖かくなります。

雨量は地域により差はありますが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少なくなります。特に内湾沿岸は本県でも雨量の少ない地域です。

平成21年の天候の特徴

1～4月は、低気圧や気圧の谷が短い周期で通過し天気は周期的に変わり、気温の変動が大きくなりました。5月は、高気圧に覆われ晴れた日や、南から暖かい空気が入る日が多く、気温はかなり高くなりました。6～7月は、梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりました。8月は、9日から10日に台風第9号、月末に台風第11号の影響で大雨となりました。10月は、台風第18号、台風第20号の影響で雨となった日もありましたが、中旬を中心に、晴れた日が多くなりました。11～12月は、天気は周期的に変わり、気温の変動が大きくなりました。

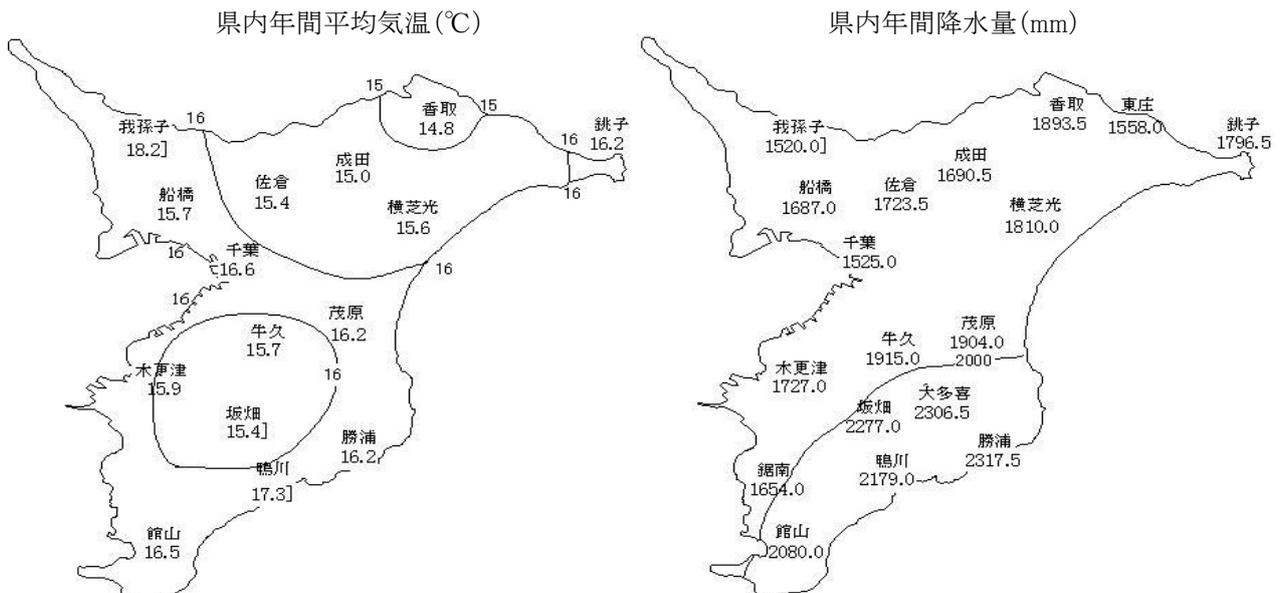
年間降水量は、平年並みからかなり多く、年間日照時間は平年並みから少なくなりました。

平成22年の天候の特徴

1月は、冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。2月から4月は前線や低気圧、寒気の流入で気温が低く、日照時間も少なくなりました。5月は高気圧に覆われた日が多くなりました。6月、7月は梅雨前線や低気圧の影響を受けましたが、高気圧に覆われた日が多くあり、気温は高く、日照時間も多くなりました。8月は台風第4号や低気圧の影響を受けた日もありましたが、太平洋高気圧に覆われた日が多く気温もかなり高くなりました。9月、10月は台風第9号・第14号及び前線や低気圧の影響で、降水量は多くなりました。11月、12月は、天気は周期的に変わり、気温の変動が大きくなりました。

年間平均気温は高い又はかなり高く、年間降水量は多い又はかなり多く、年間日照時間は平年並み又は多くなりました。

気象分布図 平成22年



注：我孫子は観測所の移設に伴い、気温・降水量ともに資料不足値（観測値]）となります。
また、坂畑・鴨川の気温は施設整備工事に伴い、資料不足値（観測値]）となります。